

今月のことば

亡き人に
迷うなと
拝まれている
この私

(真宗大谷派難波別院「法語板」より)

龍谷大学非常勤講師
小池秀章 こいけひであき

3月には、全国各地で、お彼岸の法要が行なわれています。お彼岸に、お墓参りに行く人も多いと思います。お墓参りもとても大切なことですが、どのような気持ちでお参りしているか、振り返ってみてください。

もし、「ご先祖さま、迷いませんように」という気持ちでお参りしているとすれば、浄土真宗の受け取りとは違います。

お寺の法語板に、「亡き人に 迷うなと拝まれている この私」という言葉が書かれていました。「ご先祖さま、迷いませんように」と拝んでいる人には、違和感があると思いますが、この言葉は、浄土真宗の受け取りを、的確に表わしています。

大切な点は、迷っている（真実が見えていない）のは、誰かということですが。迷っているのは、ご先祖さまではなく、今、生きている私たちなのです。

浄土真宗では、「亡き方は、アミダさまのはたらきによって、お浄土に生まれ、仏さまに成られている。そして、仏さまと成った亡き方は、私たちを正しい方向に導こうと、はたらいってくださいっている」と説かれます。

つまり、私たちが、亡き方を心配する必要はないのです。逆に、仏さまと成った亡き方が、私たちのことを心配してくださっているのです。ですから、私たちは、お墓参りをして、亡き方を偲ぶと同時に、お寺にお参りして、仏さまの教えを聞かせていただくことが、大切なのです。

合掌